

## 研究活動報告（令和二年一月～十二月）

### 〔学会〕

三月十八日 創価大学『日本語日本文学』第三〇号 発行

十月十六日 日本語日本文学会（学生の部）十三時〇五分  
～ オンライン開催

十一月十三日 日本語日本文学会 令和二年度年次大会  
十四時五十分～ オンライン開催

### 〔会 員〕

#### ◇山本忠行教授◇

二月から三月末まで文化庁が行った「文化庁届出受理日本語教師養成研修実態調査」に委員として協力。

三月二十五日 「日本語教育振興協会評議員会」（アルカディア市ヶ谷）に評議員として出席。

三月三十一日 大学日本語教員養成課程研究協議会ニューズレター五七号に「問われる日本語教員養成の理念」と題して巻頭言を寄稿。

三月三十一日 杉野俊子監修『英語とつきあうための50の問い』（明石書店）の第36問「アフリカでの言語をめぐ

る格差とはどのようなのですか」（pp.196-200）を執筆。

五月三十日 日本語教育学会春季大会においてパネルセッション「21世紀の日本語教育学を考える―視点としての「学」という観点から―」にパネラーとして参加（コロナウイルス流行のため、予稿集による誌上開催）

六月一日 「ブックススクウェア 荒川清秀『漢語の謎―日本語と中国語のあいだ』ちくま新書」を『学光』第四十五巻第三号（創価大学通信教育部）に執筆

六月二十三日 「日本語教育振興協会評議員会」（主婦会館プラザエフ）に評議員として出席。

八月十一日 論文「大学通信教育部における日本語教員養成の意義と課題―生涯学習と社会貢献―」『創価大学通信教育部論集』二十三号 pp.12-33

九月三十日 大学日本語教員養成課程研究協議会ニューズレター五八号に「時代を先取りした日本語教育人材の輩出を」と題して巻頭言を寄稿。

十月二十八日 「日本語教育振興協会評議員会」（オンライ

ン)に評議員として出席する。

十一月六日 大学日本語教員養成課程研究協議会総会(オンライン)を代表理事として開催する。

※その他

日本言語政策学会論集査読委員、日本語教育学会論集査読委員を務める。

#### ◇平林香織教授◇

三月二十六日 共著 平林香織編『大名文化圏における〈知〉の饗宴』世音社 右所収論文「江戸の梅毒治療物語」(秋元成鎬他共著) 11～64ページ「大名の遊び心に隠された〈知〉——松代藩第六代藩主真田幸弘の場合——」 139～171ページ

【翻刻と考察】池田玄斎著『築山抄』(酒田市立光丘文庫蔵)——杉山廉女の歌論と庄内藩の文芸的環境をめぐって——(錦仁共著) 265～331ページ

【目録】公益財団法人・地動博物館所蔵酒井忠徳関係文芸資料」 443～478ページ

三月三十一日 単著論文「江戸時代梅毒専門医・船越敬祐によるナラティヴ・メディスン——絵本黴瘡軍談』の再評価」『科学研究費助成事業基盤研究C報告書(研究代表・柳谷千枝子 研究課題・医療倫理教育のためのG・

グリーン作品のナラティヴ解析研究』、17～30ページ)

十月一日 単著論文「連句のサウンドスケープ——連句の演習実践報告——(日本連句協会『会報連句』第236号、4～9ページ)

十二月二十一日 単著『文学史の向こう側』世音社

#### ◇山岡政紀教授◇

二月二十八日 招待講演「ボライトネスと配慮表現」フランス国立東洋言語文化大学「言語の主観性」研究プロジェクト研究会

三月二十日 「日本語配慮表現データベース構築プロジェクト報告(二)——二〇一九年度の活動報告——」『日本語コミュニケーション研究論集』第九号、日本語コミュニケーション研究会

三月二十日 寄稿「師と出会い、師から学ぶ」『いがぐり』第五十九号 東北大学文学部・大学院文学研究科 国語学研究室

三月三十日 「日本語疑問表現の会話における発話役割——発話機能論からの考察」『日本語語用論フォーラム3』

加藤重広・滝浦真人編、ひつじ書房

四月一日 創価大学南アジア研究センター研究員に就任。

四月一日 寄稿「創価の信仰学を考える」創学研究所公式

ホームページ

六月十三日 読後記「カミュ作『ペスト』」を個人サイトに公開。

八月二十二日 研究発表「発話機能が慣習化した第3モダリティ」(第十一回日本語コミュニケーション研究会)

八月二十九日 基調講演「配慮表現データベースの入力について」(配慮表現データベース研究会)

八月二十二日・二十九日 第十一回日本語コミュニケーション研究会、配慮表現データベース研究会を主催者として開催。科研費の研究分担者・協力者を中心に二十五名が参加。

十月五日 個人サイトに「配慮表現覚え書き」コーナーを開設。研究メモ二十五本を公開。

十月三十一日 創価大学南アジア研究センター主催 国際会議 "Japan-South Asia Connections on Economy, Health and Education" Education Panel V において議長を務める。

十一月二十五日～二十九日 日本語用論学会第二十三回大会(オンライン開催)にて大会実行委員長を務める。

十一月二十八日 研究発表「配慮表現はいかに普遍的であるか」ワークショップ「配慮表現の対照研究」(日本語用論学会第二十三回大会) また、同ワークショップの

オーガナイザーを務める。

十二月十日 「研究覚え書き」「言語学から人間学へ」『東洋学術研究』第五十九巻第二号

一月～十二月 日本語用論学会評議員・常任委員として、学会運営、査読等にあたる。

◇守屋三千代教授◇

三月十八日 論文「物語に見られる「ナル表現」——『星の王子さま』に現れた「ナル表現」と英訳の対照研究——『日本語日本文学』第30号」の創価大学日本語日文学会

十月十七日 口頭発表「『ナル表現』研究会と現在の課題」於ナル表現研究会(科研費基盤研究C16K00217「ナル表現」の認知言語学的研究—類型論を視野に入れて—)に基づく)

◇山中正樹教授◇

三月十八日 論文「村上春樹の文学世界(二)——「地下二階」の意味をめぐって——」(創価大学日本語日本文学) 第三十号)

一月～十二月、川端康成学会特任理事、および日本文学協会委員・運営委員として、学会運営・査読等の任に当たる。

◇李丹助教◇

四月 論文「日本、超級全球化大学、人才培养理念、特色及启示——基于创价大学的考察」『和平・分享・行动2017』池田大作思想研讨会文集』温憲元主編、華南理工大学出版社

七月 論文「关于日语配慮表达、なるほどの規約化」『日本学研究第30辑』北京日本学研究中心、教育部国别和区域研究基地日本研究中心、郭連友主編、社会科学文献出版社

八月二十九日 研究発表「副詞『たしかに』の慣習化にみる未実現事態への危惧」（配慮表現データベース研究会）  
十一月二十五日 論文「応答発話における副詞『たしかに』の機能について」『日本語と中国語の副詞』日中対照言語学会編、白帝社

十一月二十八日 研究発表「日语副詞『たしかに』的規約化過程中的隐性因素探析」（2020年度日本語教育と日本学国際シンポジウム・教育部高等学校教学指導委員会日本語分委員会、中国日语教学研究会上海分会主催、於中国同济大学）